

神戸スタイリッシュDAY

# 心くばりの ビジネス・スタイル

監修：鈴木晴生

By Haruo Suzuki



awareness

## 気づき

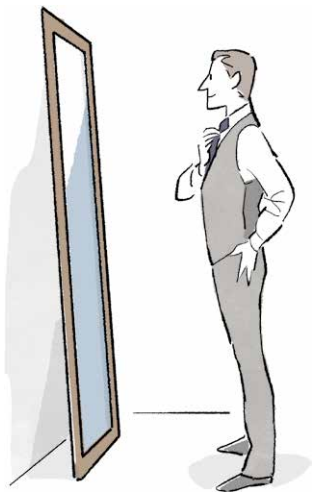


人は中身が大事なので見た目は気にかけなくてもいい、なんてことはあり得ません。誰も内面は必ず服装に表れますので、中身がきちんとしていれば、おのずと見た目も整ってくるのです。そういう意味で、あなたが着ている服はいつでも社会と向き合っています。そのことに気づくところから、装いのすべては始まります。好みやセンスだけでなく、暮らしや社会人としてのたしなみ、仕事のやり方など、あなたが隠しておきたいことまで含め、着こなしは語ってしまうのです。

服装は、  
その人を語り、  
その人に語りかける

self-analysis

## 自己分析



服を選ぶときに最も大切な基準は自分自身です。理想に向かって自分を整えるためには、自分自身をまずよく知る必要があります。普段、鏡で見える正面だけではなく、側面や背面など、さまざまな角度から“自分の見え方”を知っておいた方が良いでしょう。自分の体形のクセをきちんと把握して、不要なシワができないように気をつけてください。さらに単に体にフィットするのではなく、時代の流れ、今日的なフィット具合がどうかも重要です。

improvement

## 改善



「とりあえず無難な服を着ておけばいい」と思っている人がまだまだ多いのは事実でしょう。しかし、それでは未来の可能性はありません。社会が日々刻々と変わっていく中で、毎日の仕事においても新たなアイデアや試みが求められます。「何かを変えよう」、「発展させよう」という前向きのエネルギーや意識は、服装にも表れるのです。様々な改善を繰り返しながら成長をしていく。自分の仕事に責任を持つ人は、自分の服装にも同じように責任を持つべきでしょう。

application

## 応用



自らの装いと向き合うことが、日々を生きる活力をもらうことだとわかれば、きっとあなたの人生そのものも変わっていきます。今日という日が、昨日の単なる繰り返しではないように、いつもと同じ単なるスーツ姿もないのです。同じネイビーのスーツだけれど、今日という日にふさわしいシャツやネクタイを、しっかり選んでコーディネートすれば、自分らしい組み合わせのアイデアはどんどん広がっていきます。そんな毎日の積み重ねが、あなたを大きく変えていくのです。

aesthetics

## 美学



「仕事着」という規制の中では、誰もが同じようにスーツを着て群れをなしています。ところがそんな群れの中でも、「個」として輝く人がいます。そのように着る人の気持ちを支え、輝きを違えているのが、美学であると言えます。人生も装いも、美学があるのとならないのは大きく異なります。自分の気持ちを安定させ、つねに自らの理想とする世界観へと気持ちを戻すためにも、服装は自分の美学や理想とするイメージ、憧れなどを体現させたものでなければなりません。

means

## 手段



服装は、いかにそれを体裁よくつくり上げるかを目的とするのではなく、それを通じて目の前に対峙している相手にどれほど敬意を払い、心を込めているかを伝えるための手段です。出かける前にトラウザーズをきちんとプレスする行為も、「今日、あなたにお会いするのに、失礼のないようにしてきました」という意志の表れです。服装を整えていくうえで、いま自分が生きている社会にどのように敬意を表すかがとても重要なのです。

stylish

## スタイリッシュ



社会的にも信頼を得て、ビジネスの上でも成功している人たちの多くは、自分流のスタイルを持ちながらも、常に社会の目を意識した服装をしています。ファッショナブルであることと、スタイリッシュであることとは違います。昨今は何もなくても流行に関する膨大な情報が溢れているので、簡単に“おしゃれっぽく”装うことができます。しかし、そのような混在する環境から、自分に合うものを見つける力を養い、自分だけのスタイルを持つように心がけてください。

pride

# 誇り



服はその人の自尊心と誇りを表し、同時に周囲への気遣いも表しています。服装に気をつけることは、自分を大切にすることであり、また周りの人を大切に想うことでもあるのです。たとえば、汚れた靴や明らかにスーツ姿にふさわしくない靴を履いている人は、自分にそのような靴を履かせています。その反対に、決して高級ではないけれど丁寧に手入れの行き届いた靴には、それを履いている人の品性が表れます。



〈写真提供「JAPANESE DANDY」から〉

監修者：

鈴木晴生氏

(SHIPS 顧問、メンズクリエイティブアドバイザー)

1965年にVANチャケットに入社。1970年にテイジン メンズショップに入社、シャンタルデュモ「エーボンハウス」ブランドの企画等に従事。その後、独立し「メッサーフリッツ」ブランドを立ち上げる。1996年にSHIPSに入社。企画部長・執行役員を経て、現在は顧問・メンズクリエイティブアドバイザーとして、多くの企画で指揮を執る。

デザイン：仲村健太郎

イラスト：山崎真理子

制作：株式会社 CAEAN

発行：神戸スタイリッシュデー実行委員会

平成 27 年 11 月

平成 27 年度 兵庫県商工会議所連合会労働環境対策事業

**神戸スタイリッシュDAY**

大人の生きかたは、  
服に出る